

■世界：IEA と OECD が原子力ロードマップを発表

IEA（国際エネルギー機関）と OECD（経済協力開発機構）の NEA（原子力機関）は 2010 年 6 月 16 日、「原子力ロードマップ (Nuclear Energy Technology Roadmap) を発表した。これによれば、2050 年時点で世界の電力供給の 25% は原子力によって賄われ、この需要を満たすには 40 年の内に現状の 3 倍程度の設備が必要になるとしている。また、報告書は原子力を再生可能エネルギー、CCS（二酸化炭素回収・貯留）と並ぶ二酸化炭素排出量削減のキー技術と位置付け、既に確立された技術で大きな技術革新を要しない点で他の技術より優位にあるとしている。反面、政治的側面、資金調達、世論の理解といった問題を抱えている点を指摘している。報告書は、政府による強力な原子力へのコミットメントと情報開示、放射性廃棄物問題への取り組みを明確にすることが必要であると述べている。また、建設資金は多くの国にとって困難を伴うもので、政府による債務保証等の施策についても言及している。